

2017-18 年度 第二回中間報告書
(報告期間 2017 年 10 月 1 日～12 月 30 日)

国際ロータリー第 2710 地区
2016-2017 年度 地区補助金奨学生
三澤志織

1. 報告書提出日：2017 年 12 月 30 日
2. 基本情報
 - 氏名：三澤志織
 - 派遣ホストクラブ及びカウンセラー：広島西ロータリークラブ、梶本政明様
 - 受入ホストクラブ及びカウンセラー：Rotary Club of Monterey Pacific, Ms. Lisa Luscombe
 - 教育機関：Middlebury Institute of International Studies at Monterey
 - 専攻分野：MA in Translation

12月の中旬で秋学期が終了し、冬休みに入りました。今回は、2017-18年度の第二回目として、前回の報告以降の成果についてご報告します。

学業面での成果

1. 秋学期について

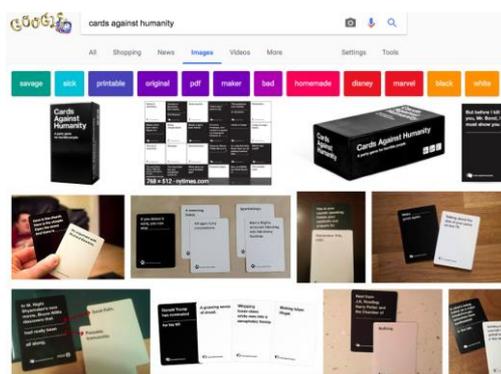
秋学期は、卒業論文や、今学期から引き受けることになった、学内で学生が運営する翻訳会社からの翻訳の仕事、ティーチング・アシスタントの仕事など、授業と並行して取り組むべきことが増えました。卒業論文は、想像以上に負担が大きく苦戦しましたが、そのおかげで昨年と比べて圧倒的に多くの翻訳に取り組むことができ、様々な方法を試しながら、自分にあった翻訳への取り組み方やスタイルが少しずつ分かってきている実感があります。ティーチング・アシスタントの仕事では、人にインタビューをして記事にすることに取り組む機会があり、この作業は思った以上に難しく時間のかかるものだと気づくと同時に、良い勉強になりました。

授業で取り組む翻訳は、特許、科学技術系、医薬系など、専門性がより高くリサーチに時間がかかるものになり、課される分量も増えました。各課題に取り組む際にも、リサーチがなかなか終わらなかつたり、納得のいくものになかなか仕上がらなかつたりと苦戦しますが、その分少しずつ力をつけてきているのかなという実感もあります。先日あるクラスメイトと話をしていた時、入学して初めて取り組んだ翻訳課題の話になりました。その友人は書類を整理していて、返却されたその課題を見つけたそうなのですが、当時はいいと思ってやっていた翻訳が、今見ると恥ずかしかったそうです。私も振り返ってみると、例えば今学期に受けた中間試験や期末試験の内容は、一年前にはこなすのが難しかったと思います。そう思うと、成長したことが実感できて少し嬉しく、励みになりました。

また、純粋な翻訳の授業以外に今学期は、翻訳演習 (Translation Practicum) という実際の仕事を想定した課題に毎回取り組む授業や、翻訳通訳ローカリゼーション管理研究 (Research on Translation, Interpretation and Localization Management) の授業、ソフトウェア&ゲーム・ローカリゼーション (Software and Game Localization) というローカリゼーション管理関係の授業なども受講しました。ここで、ソフトウェア&ゲーム・ローカリゼーションの授業で取り組んだグループプロジェクトが興味深かったので、少しご紹介したいと思います。

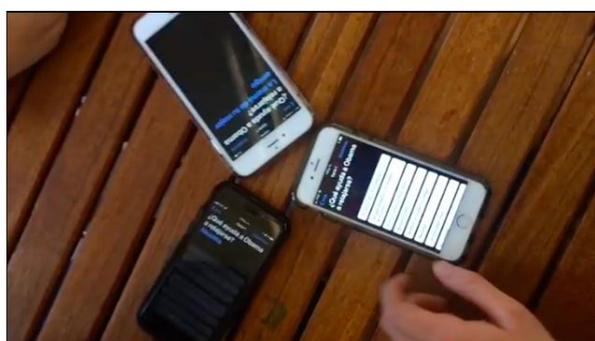
す。この授業は、スマートフォン、タブレット等のアプリケーションや、オンラインゲームなどをローカライズする（様々な言語版を作る）さまざまな方法を学ぶものでした。ローカリゼーション関連の授業は、いつも最後のまとめとして期末にグループプロジェクトが課されるのですが、この授業で取り組んだプロジェクトは、カード・アゲinst・ヒューマニティー（Cards Against Humanity）というアメリカの人気カードゲームを基に作られた、iOS アプリ（iPhone や iPad などのアプリ）のローカリゼーションでした。

カード・アゲinst・ヒューマニティーについて少しだけ説明させていただくと、穴埋め問題のような問いが書かれた、黒色カード（質問カード）と、穴埋めの答えとなる、白色カード（答えカード）を使って遊ぶもので、ゲームの親となった人が引いた黒色カードの穴埋め問題を、手持ちの白色カードを使って、いかに面白く完成させられるか競うというものです。日本語版はありませんが、インターネットを見ると、「人倫対戦カードゲーム」と訳されていることが多いようです。



カード・アゲinst・ヒューマニティー
（Cards Against Humanity）

プロジェクトでは、英語版のアプリに対し日本語版とスペイン語版を作りました。チームメンバーが私と日本語科のクラスメイト、そしてスペイン語科の三人だったからです。プロジェクトの計画を立てた後は三人で役割分担をし、私は主に日本語への翻訳と、画像の加工を担当しました。iOS アプリのローカリゼーションは授業でも習ったことだったのですが、何をどうするか教えても



iPhone で作動テスト

らえる授業と違い、自分たちでアプリを分析して、やるべき作業を一から考え、工夫したり、新しく必要なことを学んだりする作業は、大変な中にもとてもやりがいがありました。例えば、私の担当した翻訳に関しては、部分によって翻訳の仕方を変える工夫をすることにしました。

黒色や白色カードに書かれている質問や答えについては、英語では面白くても、他言語では文化的背景の違いからそんなに面白くないことがあります。その観点から、単に翻訳するのではなく、言語ごとに内容をまったく新しいものにすることにしました。日本語やスペイン語それぞれでユーモアが感じられたり、親しみが持てることを重視するべきだと考えたからです。試行錯誤してローカリゼーションが完成した時にはとても達成感があり、やはり実際に自分たちの力で取り組むことで一番学ぶことができると改めて実感しました。



ローカリゼーション後
(左から、日本語版、
スペイン語版、英語版)

2. その他

10月の後半に、昨年も参加した、ATA 年次会議に参加いたしました。ATA は American Translators' Association (米国翻訳者協会) のことで、毎年協会の会員をはじめ、米國中や世界から翻訳者や通訳者が集まり開催されます。期間中は、翻訳者や通訳者、その他の翻訳通訳業界の関係者による様々な分野についての講演やワークショップが行われる他、ネットワーキングのための様々なイベント等が行われます。昨年の開催地はサンフランシスコだったのですが、今年はワシントン DC でした。モントレイから距離的に遠いこともあり、昨年と比べて私の学校から参加する学生はかなり少ない印象でしたが、興味深い講演も多く、良い刺激になったので参加してよかったと思いました。

受入地区でのロータリーとの関わり

10月の初旬の土曜日に、受け入れクラブのボランティア活動に参加させていただきました。今回は、植林をする活動です。受け入れクラブの方々にとっても初めての試みのようでした。モントレイでは松の木を受ける活動を行っている方がおり、その方たちの活動に協力するというものです。早朝に集合し、

まずクラブの皆さんと朝食をいただいてから作業を開始しました。苗木を植えるためにまずシャベルでしっかりと穴を掘り、その中に苗木を入れて土をかぶせて行く作業です。その後、保護用の針金製の囲いを周りに打ち込んでつけていきます。作業はカウンセラーの Lisa さんとペアを組んで行なったのですが、植林は初めての体験で、思っていたよりも力仕事なのだということが分かりました。自然の中で、久しぶりに汗をかきながらの作業は、とても良いリフレッシュとなりました。クラブの皆さんと作業前後に朝食をいただけただけのも、楽しい経験でした。定例のミーティングやその他の行事には、結局参加が叶わず残念でしたが、今後機会を見つけて参加できることを願っています。



植林ボランティアにて、
受け入れクラブの皆さんと

直面している課題、今後の目標

冬休みは今年も1月下旬までと長いのですが、今年は卒業論文の第一稿を仕上げる作業、1月末締め切りとなっている翻訳研究の授業の研究論文の執筆、就職活動に向けた準備など、取り組むべきことがいくつかあり、すべてを滞りなく行っていくことが現在の課題です。卒業論文は、冬休み中に翻訳プロセスについて分析・解説する章を仕上げるため、早めに翻訳を完了させ、解説の章の執筆に移れるようにすることが目標です。また研究論文については、翻訳研究の授業で、受講者が各自小規模の研究を行い、それについて論文を書くというものです。私が行なっているのは、翻訳支援ツールについてのリサーチで、教授や卒業生の方々にインタビューやアンケート調査のご協力をお願いしながら進めています。これから文章にまとめていく作業となりますが、期限内に仕上げられるよう頑張りたいと思います。